

## 町石道

町石道(Stone Marker Trail)は、山の麓にある慈尊院と高野山の壇上伽藍にある奥之院をつなぐ参詣道です。伝説によると、高野山と真言宗の開祖である空海という僧（諡号 弘法大師、774-835）は、しばしばこの道を通して慈尊院で余生を過ごしていた母を訪問しました。高野山が開かれたときから、さまざまな背景を持つ人々が参詣してきました。

この参詣道はおよそ 24 キロにわたって続いており、109 メートルごとに町石と呼ばれる石の道標があります。町石道の名はここから取られました。道はよく手入れされており、ハイキングをする人も参詣者も道に沿って置かれた 217 の古い石柱を容易にたどることができます。風化した町石は、仏教の諸行無常の教えと一歩ずつ歩を進めることの大切さを教えてくれます。

町石道は、歩く人が高野山の開祖の足跡をたどることを楽しめるようになっており、目的地のみでなくそこにたどり着くまでの旅路自体も大事にしています。この道は歩ける曼荼羅（胎蔵界五仏の象徴）ともされています。55 町石の先は聖域とされているため、信仰の場所であることを踏まえて周囲にご配慮ください。訪れた人は、「山川草木番皆成仏」という弘法大師の言葉に思いを馳せてみましょう。

元気なハイカーでも通常 7、8 時間ほどかかる全行程を歩くことを計画しているなら、十分な食料と水を準備してください。矢立（60 町石近く、行程の 3 分の 2 辺り）の茶屋は、飲食物を購入できる非常に数少ない場所のひとつです。

高野山や紀伊山地の霊場と参詣道は、2004 年に UNESCO の世界遺産に登録されました。